

昭和49年度第1回シグマ研究/専門委員会議事録

日時 昭和49年5月9日(木)

場所 日本原子力研究所本部第2会議室

出席者 百田光雄(東北大), 塚田甲子男(原研), 安成弘(東大)
浅見明(原研), 飯島勉(原研), 飯島俊吾(NAIG)
五十嵐信一(原研), 大田正男(九大), 大野善久(原研)
大竹巖(富士電), 桂木学(原研), 木村逸郎(京大炉)
坂田肇(動燃), 菅原彬(MAFI), 高橋博(東工大)
中嶋龍三(法大), 西村和明(原研), 能沢正雄(原研)
原田吉之助(原研), 久武和夫(東工大), 更田豊治郎(原研),
松延広幸(住友), 宮坂駿一(原研), 山越寿夫(船研)
山本正昭(日立)

オブザーバー 田中茂也(原研)

配布資料

1. 48年度第3回シグマ研究専門委員会議事録
2. 第17回欧米核データ委員会(EANDC)概要報告
3. Conference on Nuclear Cross Sections and Technology に関する Havens からの手紙
4. 核データセンター人員計画表
5. 49年度実行計画書要約
6. シグマ研究・専門委員会幹事会議事録(4月19日)
7. Draft Discrepancy List prepared by the Sub Committee of Standards and Discrepancies.
8. 京大炉短期研究会「核分裂の物理と化学」プログラム
9. 崩壊熱評価に関する問題の検討(JAERI-memo 5638)
10. CCDNの今後の進路(要約)

11. JENDL-1 について
12. 第1回 JENDL-1 Ad hoc Committeeメモ
13. 第2回 JENDL-1 Ad hoc Committeeメモ
14. シグマ特別専門委員会特別幹事会議事録

議事に先立って、原研の委員会であるシグマ研究委員会委員長塚田氏から年度頭初の挨拶があった。又、核データ研の室長が西村氏から更田氏に代った旨報告があった。

坂田氏から学会賞受賞について挨拶があり、更に新委員浅見、菅原氏、復帰委員、能沢、高橋氏をそれぞれ紹介して議事に入った。尚、動燃の東原氏は川重に戻ったので、動燃から代りの人が委員になるかどうか西村氏が接渉することになった。

議 事

1. 前回議事録確認

訂正：

- ① P. 2. 聞けなかった → 開けなかった
- ② 前回の資料6について木村氏から図の訂正を行った旨報告があった。

2. Fusion W.G. 設立推進

塚田委員長より原研の計画について説明があり、シグマ委員会としては前回の確認に沿って当面 W.G. として start し、ゆくゆくは専門部会にしたい旨所信表明があった。次いで、W.G. の責任者に指名されていた田中氏から、現在までに W.G. のメンバーの候補に上っている人々の名前の紹介があった。これらの説明に関連して以下のような議論が行われた。

- (1) 核融合炉委とシグマ委との接触については前回報告があったが核融合炉委の4つの W.G. からそれぞれ1名ずつ出席して話合にのぞんだ。その後核融合炉委側としては核熱 W.G. が中心となってシグマ委との接触を図りたいと考えている。当面、原研の関氏が中心になってリクエス トを出して行くことになり、関、笠井、伊尾木の3氏が作業を進めている。(安委員)

- (ii) 核融合炉の第2期計画(原研の暫定案)について。推進役は原研がやることになりとの前提で、50年度は核データ関係(測定と評価)で3000万円を要求することになっている。そのうち核データ評価作業費としては1000万円を予定している。(塚田)
- (iii) シグマ委のW.G.としては50年度は数核種の評価までやれば良いと思っている。49年度は14~15名位で検討会をやって行く予定である。(田中)
- (iv) 東北大では測定をやり、評価作業への参加は辞退したいと考えている。検討会や勉強会なら参加しても良い。(百田)
- (v) 炉心関係の核データについては、その必要性を能沢委員が調べることになっている。(塚田)
- (vi) シグマ委ではリクエストリストの検討から始めると言うことであった筈で、それなら14~15名は多すぎるのではないか、10名以下でリクエストの検討をするのが妥当。(中嶋)
- (vii) まったくそのとおりである。(塚田, 安)

以上のような議論を安委員がFusion委に説明し、Fusion委の意向を再びシグマ委に報告することになった。

3. Washington Conferenceのアナウンス (塚田)

資料3について説明があり、Commentがあれば出来るだけ早く塚田委員長まで申し出ること。

4. ENDF/B-IV Formatについて (桂木)

Formatのdraftが送付されて来ている。希望者にはゼロックスのネガを貸したいので、5月19日までに申し出ること。

5. Specialist Meeting on Nuclear Data for Application

(西村)

NDSのSchmidtから上記のmeetingについて案内が来た。Level schemeとdecay dataについてのmeetingである。久武委員の意見

を入れて返事を出した。

6. WRENDAについて (五十嵐)

以前のRENDAについて行っていたようなリクエストリストの作成を再開したいが、以前よりも組織的にやって行きたい。専門部会で取りまとめるような方法を考えている。次期WRENDAのメスはNDS送付が2月なので、年内にはまとめる必要がある。なお74 WRENDAが来ている。今後の登録は個人名が望しい。

7. PNCとの交渉経過 (塚田, 更田)

Am-241の1 keV~15 MeVの断面積について評価を行うことで交渉を行っている。予算は400万円位である。受託は原研で、実施は核データ研になる。公開問題は話を進めている。計算費はすべて外注計算費で融通性がないので、計算費は受けないことにした。

8. Decay Heat W.G.の結成推進 (久武)

(i) 前回の報告では、燃料計量核データ専門部会にW.G.をおくことは、専門部会内での理解が十分でなかったためpendingになっているということであったが、その後議論を重ねて、ようやく提案の主旨が理解出来た。専門部会としては部会内に別のW.G.を置いて作業を進めることは賛成である。(久武)

(ii) 対象となるdecayは炉停止後数秒から1時間以内と考えると、現在専門部会で扱っているdecayより短いので、W.G.は別が良いと考えた。(久武) 中嶋氏から資料9を使って、必ずしも1時間以内ではなく、もっと長いものもあるとの説明があった。

(iii) シグマ委としてはDecay Heatの問題を取りあげることが前提として、W.G.の所属を考えていた。(中嶋)

(iv) 利用者としては2年位をtargetとしてやってもらいたい。(飯島)

(v) W.G.のheadを決めて、結成を推進してもらうことになり中嶋氏がheadに推薦され満場一致で決定した。

(VI) 京大炉に calorimetric な測定をやっている人がおり、他にも測定者が居ると思うので、委員会として測定を依頼出来るように働きかけを行って欲しい。(飯島)

(VII) W.G. 結成の確認は幹事会承認で良い。この点核融合炉用核データ W.G. の結成も同様に扱うことにした。

(VIII) メンバーとしては田坂、梅沢、瑞慶覧、大竹、飯島、中嶋、村田、笹本、永山、玉井、佐藤などの諸氏の名前が上がった。

9. JENDL-1 ad hoc Committee 報告 (大野)

3回の会合を行い、編集方針と編集体制について検討し資料11に述べてあるような基本方針を答申したい。(大野)

ad hoc committeeとしてはW.G.と編集委員会結成を承認してもらい、責任者を決めて早急に作業を開始することを望む。(大野)

この報告に対し、以下のような質疑があった。

(i) Formatは当面 ENDF/B-III にならうとのことだが、Fusionを考えるなら formatを考え直した方が良い。(高橋)

(ii) 核種に不足があるのではないか。(飯島勉)

(iii) Documentをはっきり出版することを希望する。(飯島勉)

これらに対し、核種とformatは検討する必要がある、編集委員会が発足すればそこで検討する。DocumentはJENDL-1編集についてははっきりした形で出版する。個々の評価はそれぞれの著者が出しているので、それらとJENDL-1のdocumentとは別である。(五十嵐)

編集の責任者として五十嵐氏を満場一致で決定し、編集委員会とW.G.の人選は幹事会で承認とすることにした。

10. 学会主査選考と学会委員会の性格に関する ad hoc Committee 報告

資料14に基づき ad hoc committeeの提案説明があり、提案通り了承され、主査選考の投票が行われた。投票の結果、過半数を得た者がなく上位2人により決選投票が行われたが決らず、3度目の投票を行った。し

かしそれでも決らなかつたので、郵便による投票を行うことになった。方法は無記名とし、2/3以上の投票を必要とし、上位得票者を主査とする。手続の詳細は選挙委員会(ad hoc committeeのメンバー)に一任する。この投票で決らぬ場合は次回委員会まで持ち越す。なお主査が決るまでは幹事は現在のまゝとし、ad hoc committee提案の2), 3)はpendingとする、ことが了承された。今回の投票結果は以下のようであった。

回数	①	②	③
塚田	11	12	12
百田	8	10	11
X	1		
Y	1		
白	3	2	1

11. INDC次期委員について

INDC委員は3年任期で、今回その交代の時期に当るので交代したい旨西村氏から提案があり、更田氏を次期委員に推薦することを決めた。

12. 49年度実行計画

資料5により更田委員から説明があり、以下のような討論が行われた。

- (i) JENDL-1作成の際の積分テスト用データを収集しておく必要がある。これをJENDL-1編集委が考えておく必要がある。(飯島俊)
- (ii) JENDLのW.G.と専門部会とは区別する。編集と評価ははっきり別のステップである。(五十嵐, 大野)

(iii) 49年度実行予算は

旅費	1,145,000円
印刷費	495,000円
会議費	182,000円
JENDL-1作成費	7,000,000円
炉定数専門部会	1,500,000円

燃料計量核データ専門部会 200,000円

である。

13. 50年度概算要求

核データセンター設立を前提として資料4により更田委員より説明があった。予算原案は(核データ研案)

- ① 委員会運営費 9,510,000円
- ② 核データ収集利用と国際協力 4,500,000円
- ③ 核データの評価
 - After-heat 5,000,000円
 - Fusion 10,000,000円
 - JENDL-1 30,000,000円

である。

塚田委員長より核データセンター設立要求は従来とは異ったイメージを盛り込み資料を作るつもりである。資料は委員会名で作りたい。又、センター設立と各専門部会の存続とは両立するものであることを前提としたい等の説明があり、これらについて了承を求めた。

資料は委員全員に配布することとし、大蔵省へ提出する段階までにはさらに推敲を重ねることとし、原案は核データ研で作ることなどが承認された。

14. その他

(i) CCDNの将来計画 (百田)

百田主査あてにCCDNのFröhner 所長からCCDNの将来計画について意見を求める手紙が来た。その要約(資料10)によりCCDNの考えていることの説明があった。返事は主査に一任することにした。

(ii) 新着のBNL325 3rd edition Vol.1につき従来のeditionと相違について紹介された。(百田)

15. 次 回

7 月中旬